

ソーシャルワーカーへの

Q & A

Social Workers Day 2023 in NIIGATA 2023.7.22

イベント申込フォームで
7月14日までにお寄せいただいた質問に対し
約30名のソーシャルワーカーから
事前に回答してもらいました。
ご質問いただいたみなさま、ご回答いただいたみなさま
ありがとうございました。

22の質問と、それに対するソーシャルワーカーの回答をご紹介します。

※7/22のイベント当日プログラム内で取り上げた質問及び
7/15以降に寄せられた質問は掲載しておりません。何卒ご了承ください。

公益社団法人 新潟県社会福祉士会
新潟県医療ソーシャルワーカー協会
新潟県精神保健福祉士協会

Thank you!



ソーシャルワーカーへの

Q & A

Q 01 ソーシャルワーカーになったきっかけ

Q 02 なぜその分野のソーシャルワーカーを目指したのか

Q 03 ソーシャルワーカーが働く職場は様々ですが、どうしてその職場を選んだの？

Q 04 なぜこの道を選んだのですか？

Q 05 なぜその職業に就こうと思ったのですか？

Q 06 福祉職の魅力はどんなところだと感じますか？

Q 07 ソーシャルワーカーのやりがいとは？

Q 08 この仕事をして、良かったと思った時はどんな時ですか？

Q 09 「本当はこんな支援が行いたいけど、制度や属する枠組みから実現することが難しい」といった葛藤があれば知りたいです。

Q 10 学生時代やっておけば良かったなあと思う事がありますか？

Q 11 学生のうちにやっていてよかったと思うことや今のわたしたちがやっておいたほうが良いことはありますか？

Q 12 自分の学生時代を振り返って、声をかけるとしたらどんな言葉ですか？

Q 13 この道に進むにあたって、心がけた方がいいことはなんですか。

Q 14 仕事を行う上でのモチベーションは何か教えていただきたいです。

Q 15 社会福祉士として必要な力とは何か教えて頂きたいです。

Q 16 CSWに必要な要素は何だと思えますか？

Q 17 専門職が問題や課題を一人で抱え込まないようにする取り組みなどがありますか？

Q 18 相談者さんとの出会いで自分の価値観が変わったことはありますか？どんなことが変わりましたか？

Q 19 目の前の課題もより広い視野での課題も日々向き合ってくださいていると思いますが、人手不足の中、それらの課題に対してどのようにアプローチしたいですか？

Q 20 社会福祉士の視点から考える新潟県の魅力と課題は何ですか。

Q 21 二児の母です。ママさんソーシャルワーカーがいたら、どのように勤務先を選びましたか？チェックポイントなどあれば教えてください。

Q 22 キャリアを積んだのち、ビッグな夢（法人立ち上げなど）がある方がいたら、その夢を語ってほしいです。

その方の幸せを願い、行動する職業だから。人と話すことが苦手だった自分に対して「聞き上手だよね」と言ってくれた友人がいたから。

私自身が福祉施設の利用者でした。そこでリカバリーし、一般企業へ就職した後、通っていた施設から働いてみないかと声をかけられました。そこで地域活動支援センター指導員やGH世話人しながら専門学校の通信教育で資格を取得しました。

今後の高齢社会に向けてニーズが高まると思ったから

学生時代のボランティア経験からいつかその仕事をしてみたいと、目標までにはいくつもの職を経験しつつ諦めなかった

前職（異業種）で、多くの方が休職や退職、メンタルヘルスを崩す方が多くいました。その中で、友人から、その人たちを支える様な仕事をしてはどうかと提案を受けて目指した。

大学時代のゼミの先生が医療ソーシャルワーカーだったから

進学した大学が社会福祉士になるための大学であったから。

ソーシャルワーカーを目指したのは自分が年を取った時に介護は無理になって、思ったからです。結構、安易な考えでした。

Q01

ソーシャルワーカーになったきっかけ

①

老人ホームの介護現場で働いていたが異動がきっかけで今の職種に就いた

介護以外の分野も学びたいと思ったから。

小学生頃（かなり昔・・・）ドラマで知りました。なんだかずっと心に残っていて、今その仕事をしています。



こどもの頃、母親が精神科病院で働いていた時期があり、母親にくっついて病院に行くことがあり、自分にとっては身近な場所でした。母親の話の中に「ソーシャルワーカー」という言葉がよく出ていたと記憶していますが、まさか自分がソーシャルワーカーとして働くとは思っていませんでした。学校現場で、教育と福祉の架け橋となる仕事をしようと思った結果、（スクール）ソーシャルワーカーになりました。

学生時代、社会福祉士資格取得を目指していましたが、現役で資格取得を逃しました。その後、救護施設で介護員をしていましたが、やはり他職種との連携を行っている中で相談員を行いたいと思い、資格を取得し、入所施設相談員となりました。

人の役にたてるのが嬉しくて、福祉という曖昧で総合的な存在に気づいた。大学に入り、初めてソーシャルワーカーにであった。国試受からないと思ったが、試験当日に奇跡を起こし、社福合格。そこから、ソーシャルワーカーとしての成長物語がはじまった。

元々は漠然と福祉専門職としか考えていなかったが、大学の講義で魅力を感じて精神保健福祉士の仕事を指すようになった。

自分が誰かの役になれていると感じられる仕事に就きたいと思っていたこと、心理学を学んできて、心理的なストレスや不安を抱えている人の力になりたいと思っていたこと、その時に介護や福祉の分野に触れる機会があったことから、困っている方や心理的に弱くなっている方に対して、お話を聞いたり、相談したりすることで役に立てるお仕事がしたいと思った。

単純に、困っている人、弱い立場の人の力になりたいと思ったから。せっかく福祉系の大学を出たので、活かしたほうが良いと思ったことも要因。

福祉施設で勤務していましたが、そこで不適切な支援を目の当たりにし、違和感を感じながらも根拠を持ち言語化することができない自分に憤りを感じ、学びを深める中でソーシャルワーカーになっていきました。

職場の先輩に「入会しなさい」といわれて

兄弟が社会福祉士の資格を取得し、興味をもったため

サービス管理責任者として仕事することになったため。

Q01

ソーシャルワーカーになったきっかけ

②

もともと心理師を考えていましたが、時代背景的に私の若い頃は心理のお仕事がなく、高校の先生と相談して心理的なことにも関わりつつお仕事として成立している職種は何かと探したら、ソーシャルワーカーというお仕事に行きつき、目指すことにしました。

ソーシャルワーカーという響きがかっこいいから！

精神科病院への就職がきっかけ。

高校3年生の夏、車椅子の方がエレベーターの故障で地下街に行けずに困っているところに遭遇したことがきっかけです。

福祉職のきっかけは中学の頃のボランティアです。ソーシャルワーカーというものを実際に知ったのは大学に入ってからです。実習を通し、クライアントのために奔走するソーシャルワーカーの姿を目にし、憧れをいただきました。



大学で社会福祉士、精神保健福祉士を学び、初めての就職先で生活相談員として採用されたため。

30代の頃にうつ病を罹患し、精神科へ通っていました。そのとき、僕よりも若い方々が沢山精神科へ通院していることを知り、「この人たちはどのような支援を受けられているのだろうか？」「誰がこの人たちに寄り添うのだろうか？」という素朴な疑問を抱き、福祉系の大学に編入して社会福祉士の資格を取得しました。そこから脱サラをしてNPO法人を設立しました。

大学で精神保健福祉の勉強をする中で、興味をいただきました。ハンディキャップ自体が目に見えにくいこと、疾患の側面と障害の側面があるため、周りにも理解を得にくいだらうと感じ、そういう状況のクライアントのために何かできることはないかと考え、目指しました。

最初は障がい福祉の仕事をしたかったのですが、学校の先生に勧められて、高齢分野へ。転職や異動もあり、障がい分野も経験しました。今は異動で包括にいます。

どこでも活躍出来るジェネラリストソーシャルワーカーを目指して、他の分野も体験してきました。今はその過程で、高齢者分野に携わってます

障がいをお持ちであっても、日本の未来を支える大事な人です。その人の望む夢を叶えるため希望しました。

学生時代のボランティア経験からいつかその仕事をしてみたいと、目標までにはいくつもの職を経験しつつ諦めなかった

保育園や小学校低学年の時に、祖父母の世話になり、お年寄りの役に立てる仕事がしたいと感じたため

高齢者が好きだからと、高齢者のために何かお手伝いしたいと思ったから。

最初は病院に配属、ケアミックスの時代に併設老健が出来て異動、介護保険元年に病院に戻り、令和になって老健へ異動

Q02

なぜその分野のソーシャルワーカーを目指したのか

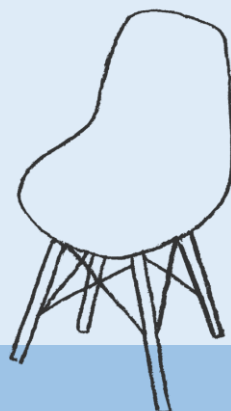
①

多様なニーズを抱える対象者は「困りごとを抱えている人」という一つのジャンルなので、私は支援する対象をジャンル分けして「選ぶ」ことはあまりしたくないと考えています。特定のジャンルにこだわるということは「そのターゲット以外は支援しません」と言っているようなものなので。社会福祉士はジェネラリストであるべきと考えます。そういう視点で今後も自己研鑽をしていきたいと思っています。

相談業務をもっとしたいと思ったから。昔は相談業務はベテランがするという感じでした。

初めから目指したわけではなく、就職してから深めていきました。

異動がきっかけ(最初は高齢→障害→また高齢に戻ってきた)視野を広げるためにもまた高齢に戻りたかったから



自身が依存症や生きづらさなどの問題を持っていて、沢山の支援者やピアのサポートを受けて助けられました。その経験が活かせると思ったからです。

障がい分野で活動している支援者がキラキラして見えたため。(それまでは高齢分野で仕事をしていました)

自分に起きた出来事からです。もともと一般病院のMSWをしていましたが、公私ともに人生を変えるような辛く大変な出来事がありました。それを機に、精神科ソーシャルワーカーになって多くの人をもっと理解したい、もっと受け入れられるようになりたい、もっと支えたいと思い、今の分野に就きました。

一番声が届きにくい、声を出しにくい、見つけにくい所に関わることが、地域社会全体の変革や底上げに繋がると感じたため

休職やメンタルなどを探すと「精神障がい」と「精神疾患」に行きつき、障がい福祉の分野を目指すことにした。

家族の病気や介護を経験し、大変さを思い知った。「もっとどうにかならないか」という思いで医療分野の福祉に興味をもった。

地域包括支援センターで働きたいと思ったから、前職の施設から転職した。地域に出向きアクション出来る包括に魅力を感じた。



精神科病院へ転職して福祉を学んだ。

Q02

なぜその分野のソーシャルワーカーを目指したのか

②

大学4年生の時、リハ病院での実習中にある高齢者との出会い、「あなたもこうなればわかる」という言葉がきっかけで高齢者分野を選択しました。

ずっと高齢分野に関わってくる中で、「地域」という広い視点をもって活動したかったから。

ソーシャルワーカーを名乗って起業したかったから。

恩師から精神障害がある方への支援をするためには、精神科医療を正しく学んだ方が良いと助言を受けたからである。精神科医療機関を離れてみたこともあったが、まだまだやれることがあると思い、再び精神科医療の分野に戻った

自分が経験した病気がもとで『若者支援』『ひきこもり支援』のフィールド選択をしました。まだまだ制度も認知度も充分ではない分野なので、行政や他機関との連携が必要ですが、個別支援だけではなく、地域づくりを視野に入れた活動ができるのでやりがいを感じています。

当時、救護施設では他事業のサービス提供者と連携を図る機会が増えている時期でした。連携を行い、利用者の利益追及や自己実現を図る相談員業務はやりがいがあると感じました。

高齢分野への就職を考えていましたが決まらず、興味はありませんでしたが、障害者入所施設の募集があり、応募したところ採用していただきました。そこで、毎日が刺激的で、学ぶことが多く、たくさんの幸せを感じることができました。こんな仕事があったんだと。この仕事が好きになり、いまだにこの障害分野のソーシャルワーカーを目指しています。

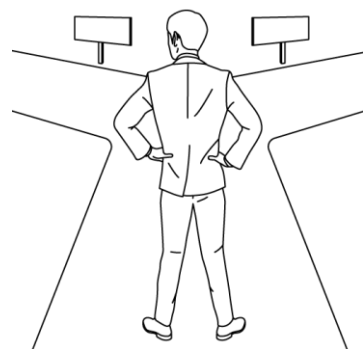
特定の分野というより、病院という様々な年代の方が利用する機関で、幅広い分野での仕事をしたいと思ったため。

児童分野、また学校現場のソーシャルワーカーを目指したつもりはありませんが、気がつくスクールソーシャルワーカーになっていた感じです。

学校の薦めで面接を受けました。最初は介護職での採用。同じ学校の卒業生で若くして管理者をやっている優秀な人であること、面接の際にソーシャルワークについても指導して下さるということだったので、決めました。最初に出会う上司、同僚は重要だと思います。それによって、だいぶ違うと思います。ちゃんとしたソーシャルワーカーがいる法人を選んでもいいかもしれません。

精神保健福祉士だと精神科の病院が勤務場所として多いのですが、養成校で「地域へ行け！」と当時の学校長から強く言われたので、地域を目指しました。多分病院に合わないタイプとあったのもあります。

新しい施設を始める話が出て、そこで働くことになりました。



職場からの
辞令
(不可抗力)

自分の地元で
働きたかった
から

友人に、障害分野
に誘われた。

Q03

ソーシャルワーカーが
働く職場は様々ですが、
どうしてその職場を選
んだの？

①

さまざまな実習先に行きましたが、今の職場にも実習に来ました。一番楽しく、夢中になれたからです。

単純に、人のための
なる仕事に就きた
かったから

求人が出ていたので…

働く場所が様々あること
を知らなかったから。

病院の相談員は、「THE相談業務」といえる仕事と思ったから。実際はそればかりでないが。

人生は生老病死。カテゴリーで人の援助をするのではなく、ひとりの人のライフステージごとに関われる仕事だと考えたからです。

高齢分野をメインに、関連する分野で社会福祉士という資格を発揮できる

院長の方針が医療一辺倒ではなく、きちんと患者様の生活を重視した福祉に寄った理念・方針だったからということと、何より自由と責任をしっかりセットでやらせてもらえるからです。

選んだのではなく、偶然です。ただ、人に嫌われるタイプですが、人は好きで、人と関わる仕事がしたい気持ちがあり、介護の仕事を探していました。そこで、偶然求人が出ていた、現在の所属法人に出会い、採用していただきました。

選んだというわけではありませんが、今所属している組織の中で何が自分にできるのか、何をしたいのかを考えた時に相談員という仕事を選びました。

精神科医療でも病院と診療所では患者層や求められることが多少異なっていることもあり、精神科診療所での関わりの方が自分に合っていると感じたから

独立したいと考えたから。

『地域にないものを創る』という発想からNPO法人を立ち上げました。NPO法人を運営するという事は、経済的な裏付けが必要になります。つまり、売上（自主事業、委託事業、寄付、会費）がないと団体の継続は不可能です。この辺りは、民間企業で働いてきた経験が活かされていると思います。

求人があったから

Q03

ソーシャルワーカーが働く職場は様々ですが、
どうしてその職場を選んだの？

②

縁があったので。

学生時代のボランティアがきっかけで今の職場に就職。

大学卒業後、学校現場で働き始めました。教員、カウンセラーと働いた後、（スクール）ソーシャルワーカーになった感じです。

たまたま包括の求人があったので（笑）

そのときどきの自分の立ち位置と社会のニーズ、そして法人からの命令など、主体的に「これがやりたい」という感じはなく生きてきました。私は支援する対象をジャンル分けして「選ぶ」ことはあまりしたくないと考えています。がしいて言えば特定のジャンルにこだわると言うことは「そのターゲット以外は支援しません」と言っているようなものなので。

ワーカー会という3法人に跨る横断的な組織があり、助け合える仲間が多く、何でも相談でき、何でも挑戦できる環境が整っていると考えました。

生きづらさを抱えた方や失敗を繰り返してきた方が地域社会の中で再度居場所を見つけ、生き直すために「人々と共に」差別や排除、抑圧等に立ち向かい社会に働きかけていくというソーシャルワーク実践を行える場所だと感じたため



大学進学の際に、父から「これから介護保険も始まるし福祉の道もいいと思う」と後押しがあったから。

人と関わる仕事がしたいという気持ちもありましたが、当時は正直、介護くらいしか自分にはできないだろうという気持ちもありました。

自分の人生で、昔福祉のお世話になった時期があったようです。自分は覚えていませんが、なんだか自然とこの道を選んできました。

自由に、その方のためにフットワーク軽く仕事がしたいと思ったから。

単純に、人のためのなる仕事に就きたかったから

縁があったので。

人の役に立ちたい



Q04

なぜこの道を選んだのですか？

①

自宅の近所に知的障害者の施設があり、子どもの頃から障がい者とふれあう機会があった。また、子どもの頃、祖母が特養に入所しており、施設によく行っていた。こういう仕事があることは知らなかったし、人の役に立つ仕事をしたいと福祉を志しました。

営利活動（商売や儲け）にとらわれずに、人と関わる仕事がしたかったから。

ボランティアがきっかけで、仕事にしたいと思った。

学生時代は正直なところ、福祉に関する仕事に注目が集まっている時期で「人の役に立てる仕事」という安易な考えで選びました。現在は悩むことも多く、なんでこの道を選んだのかと考えることもありますが、選んで良かったと思っています。

自分ひとりの力には限りがあるので、協力しながら支援を行いたいと思ったから

祖父母に育てられたため、漠然と福祉の仕事がしたいと思いました。

おじいちゃんおばあちゃんが好きだから(特に今も同居してるおじいちゃんおばあちゃんが昔から好き)

直感！人の役に立てる喜び、クライアントの人生に登場できる魅力、人として成長できること！(相互扶助)全てが魅力とカッコよさで溢れてる！

学生時代のボランティア経験からいつかその仕事をしてみたいと、目標までにはいくつもの職を経験しつつ諦めなかった

自分が誰かの役になれていると感じられる仕事に就きたいと思っていたこと、心理学を学んできて、心理的なストレスや不安を抱えている人の力になりたいと思っていたこと、その時に介護や福祉の分野に触れる機会があったことから、困っている方や心理的に弱くなっている方に対して、お話を聞いたり、相談したりすることで役に立てるお仕事がしたいと思った。

人のためになる仕事
がしたかったから。

高齢者の身近にいる相談
援助職でありたかった

不器用な人間があっちぶつかり、こっちぶつかりしながら、いろんな人に助けってもらって支えてもらいながら歩いていける道を進んでいったら、今の道に辿り着きました。すべて自分の希望する道を歩もうとするのは良いことなのかもしれませんが、まずはよく分からないけど歩いてみて、いろんな壁にぶつかって、いろんなところでずっこけて、いろんなことに迷いまくって、いろんな人に迷惑をかけながらお詫びと感謝を持ち続け、血も汗も涙もみんな垂れ流しながら、気づいたら目の前に見える辿り着いた道を受け入れて歩くのも、深みやおもしろみ、味わいや感慨があり、さらにその道にもちゃんと希望が約束されているので、すごく良いものですよ。私は、最初から道を決めて歩くことって、なんかつまらなくて飽きちゃうので好きではないですね。

Q04

なぜこの道を選んだのですか？

②



勉強も運動も中途半端、人と話すことも苦手、自分に自信がなかった。そんな自分にある友人が「聞き上手だよね」と言ってくれた。こんな自分にも強みがあるのかもと、少し自信がついた。話をきいて、その方を元気にしたいと思い、社会福祉士の存在を知った。

教員やカウンセラーとして学校で子ども達と接していましたが、子どものことをわかっているようで、よくわからないところがある。解決しようとしても、解決しきれない問題もある。教員であれカウンセラーであれ、子どもをサポートする仕事をしたいと思いつつ限界を感じる気持ちもありました。スクールソーシャルワーカーは学校という枠組みから、家庭、地域と子どもを理解したり、支援するための視点が広がるのではないかと思い、この仕事に就きました。

周りの人に勧められたのがきっかけですが、この道で活躍している人達を見て自分も目指そうと思いました。

人とかかわる仕事は答えがない正解ない分、その人と一緒に進んで成長できるから。

もともと心理師を考えていましたが、時代背景的に私の若い頃は心理のお仕事がなく、高校の先生と相談して心理的なことにも関わりつつお仕事として成立している職種は何かと探したら、ソーシャルワーカーというお仕事に行きつき、目指すことにしました。

その職業で活躍する人たちを見て、自分もそうなりたいと思っていた。

人の役に立ちたいのもあるが、何より、だれでも当たり前前に生きていける世の中になってほしいと思ったから。

社会福祉士取得の実習施設に病院はありませんでしたが、それとは別に病院で実習を学生時代にしました。そこで出会った患者さん（じん肺）の生き様、人生に触れて病院で相談支援ができる医療ソーシャルワーカーになりたいと強く考えたからです。

医療職には色々あるが、医療の中の福祉専門職としての関わり方が必要だと感じたから

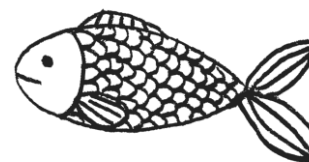
Q05

なぜその職業に就こうと思ったのですか？

①

大学に進学して得た知識を生かしていきたいと思ったから。親からもお金を出してもらいましたし。

「福祉」という分野に興味をもち、とにかく資格取得と就職したことが始まり



学生時代のボランティア経験からいつかその仕事をしてみたいと、目標までにはいくつもの職を経験しつつ諦めなかった

職場の上司に働いてみないかと声をかけられました。

自分が誰かの役になれていると感じられる仕事に就きたいと思っていたこと、心理学を学んできて、心理的なストレスや不安を抱えている人の力になりたいと思っていたこと、その時に介護や福祉の分野に触れる機会があったことから、困っている方や心理的に弱くなっている方に対して、お話を聞いたり、相談したりすることで役に立てるお仕事がしたいと思った。

当時は「これしかない！」
と思い込んでいたところも
あるかな。

祖父母に育てられたため、
漠然と福祉の仕事がした
いと思いました。

自宅の近所に知的障害者の施設があり、子どもの頃から
障がい者とふれあう機会があった。また、子どもの頃、
祖母が特養に入所しており、施設によく行っていた。こ
ういう仕事があることは知らなかったし、人の役に立つ
仕事をしたいくて福祉を志しました。

教員やカウンセラーとして
学校で子ども達と接して
いましたが、子どもの
ことをわかっているよう
で、よくわからないところ
がある。解決しようとし
ても、解決しきれない
問題もある。教員であれ
カウンセラーであれ、こ
どもをサポートする仕事
をしたいと思いつつ限界
を感じる気持ちもありま
した。スクールソーシャル
ワーカーは学校という
枠組みから、家庭、地域
と子どもを理解したり、
支援するための視点が広
がるのではないかと思い、
この仕事に就きました。

求人が出てい
たので。

起業して
働けるから

Q05

なぜその職業に就こう
と思ったのですか？

②



ソーシャルワークの中でもど
の分野のどの職業が自分がし
たいのかまだ迷うことがあり
ます。最初は「対人援助で人
の役に立てる」ということを
主に考え、スタートしました。

障がい分野の仕事に携わ
りたいと思ったから。深
い意味はないです。

ずっと高齢分野に関わっ
てくる中で、「地域」と
いう広い視点をもって活
動したかったから。

縁があったので。



おじいちゃんおばあちゃん
が好きだから(特に今も同
居してるおじいちゃんおば
あちゃんが昔から好き)

利用者・その家族はもちろん、様々な分野の関係者との出会いがあり、いろいろな人生、価値、情報を知れる。また、その出会いがソーシャルワーカーとしても人としても成長をさせてくれる。

悩むことも多くありますが、支援した方の回復や希望に近づいていく様子を見られることです。

自身が学ぶ機会が多いです。毎日が新しい発見、気づきです。

具体的に表現は難しいですが、人と接することで生まれる様々なことが、いずれは自分のためになること。

人が人を支え、その働きかけは周囲へ波及する、また本人の力や可能性を最大限引き出すことができる

その方の幸せを願い、考え、行動するところ。

「人のために働く」というところが魅力と感じます。

人の人生の登場人物になれること、対人援助を通して、自分の方が学んだり、支えられることが多い相互扶助、SWの成長に終点はないこと(想いがあれば、どこでも、誰とでもソーシャルワークできる！)

Q06

福祉職の魅力はどんなところだと感じますか？

①



正解がないところ。あと、誰かが絶対に助けてくれるところ。

ゆるやかに、したたかに、変えていくところ。

困っているひとの支えになれるところ。

福祉の仕事は将来AIに仕事を取られないジャンル。「人間しか人間を支援できない」自信と誇り。

クライアントに寄り添い、一緒に考えながらより良い生活を作り上げていくことだと思います。自身のハンディキャップ等から孤立してしまっている本人、家族が一人ではないんだと安心してもらえた時とてもやりがいを感じます。

様々な、人の価値観を通して、自分が成長していくところ。

安月給ではあるけれど、社会情勢で左右されない給与体系。「ありがとう」の言葉などお金に代えられない価値(プライスレス)な経験を得る事も出来る。

職種によっては、様々な分野(高齢、障がい、児童、就労、教育等)の支援者と関わることができる。

私は「生きること」とは、自分を生きること、自分の生活を自由と責任の中で全うすることだと考えています。福祉職に就いていると、命を懸けて真剣に、多くの葛藤を抱えながら一生懸命生きようとする人々の、人生という物語りの創作に関わらせてもらえます。それこそが「生きること」であり人間の歴史であり、その魅力は他に代え難い尊い命の価値だと感じています。



誰かのために働いていることを直接感じることができるところ。

いろいろな分野の職業の方と関わることが多く多種多様な話が聞けること。また、正解がなく、想像力を掻き立てられるところ。

医療機関の場合、医療の専門職（医師・看護師・リハビリなど）はクライアントの「病気」「身体状況」を主にみるが、福祉の専門職であるソーシャルワーカーは「生活」「想い」に寄り添う唯一無二の存在

主演じゃないところ
かなあ...

Q06

福祉職の魅力はどんなところだと感じますか？

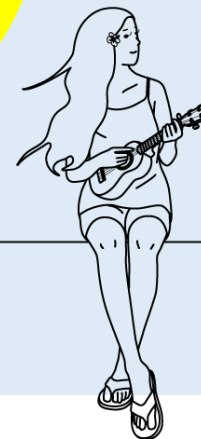
②

本当の笑顔に出会える瞬間があること。

実践が自分に対しても環境に対しても、経験や体験を増やすことで選択肢が増え、視野が広がり、理解が深まっていくところ。

やればやるほど、人のためになること！

人との繋がりが実感できる
ところ。



人を成長させてくれる最たるものは人だと思っています。その人と関わることのできるこの仕事は、お金をいただきながら研修を受けているような気持ちにさせてもらえます。新たな考え価値観、想像したことのないような体験や、新たな発見等々。とにかく、刺激的な毎日を過ごすことができるところ。

答えのないところ。医療・介護・障がい・児童など、すべてが繋がっているところ。

常に自分自身のバージョンアップが必要なところに魅力を感じます。ゼネラリストソーシャルワーカーが求められていますが、「他分野だから関係ない。」ではなく、「他分野だからこそ知っておく必要がある。」という広い視野を持たなければいけない。また、多職種連携は福祉職だからこそ求められる、ある種特殊な仕事です。他機関、多団体との協働をすることで、新たな領域へと踏み出せることはとても貴重な機会です。

ナラティブアプローチを駆使し、担当利用者の生活の質向上が認められた時、ソーシャルワーカーの凄さを感じ、やりがいを持っています。

辛いことや、うまく行かないこと、やっけていて成果が見えないことが多いけど、数少ない成功体験が嬉しくもあり、誇らしく感じるときに、やりがいを感じます。

人間の、人生という物語りの創作に関わらせてもらえることです。

たくさんの刺激を得られるところ。

その人×制度・サービス×ソーシャルワーカー＝無限大

人と人とのつながり。

Q07

ソーシャルワーカーのやりがいとは？

①



安月給ではあるけれど、社会情勢で左右されない給与体系。「ありがとう」の言葉などお金に代えられない価値（プライスレス）な経験を得る事も出来る。

個別のケース（個人）だけではなく、事業所、法人（組織）、市町村、県、国（地域）に働きかけ、変革を起こすことができる。

様々な生き方を知ることが出来ること。

「人のために働く」というところが魅力と感じます。

目の前の利用者が変化すること。その瞬間に立ち会えて、ともに喜ぶこと。

ゆるやかに、したたかに、変えていけたときに感じる。

困っている人を医療や福祉、行政等に繋ぐことが出来た時やりがいを感じます（たらい回しにならないように気をつけています）

福祉の仕事は将来AIに仕事を取られないジャンル。「人間しか人間を支援できない」自信と誇り。

ソーシャルワークは実践であり、学問である点。制度が変わると言うことは、その時代時代に暮らす人達のニーズが変化しているのだと考えます。自らのソーシャルワーク実践の質を学びながら高めていけるところ。

ケースワーク等を通じて、社会に訴え、地域や社会をかえていける

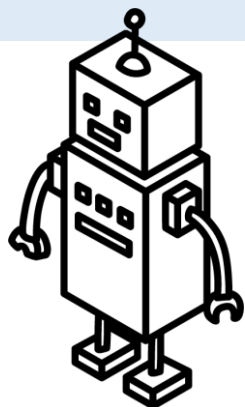
自分が役に立っていると実感できるところ

人の人生の登場人物になれること、対人援助を通して、自分の方が学んだり、支えられることが多い相互扶助、SWの成長に終点はないこと(想いがあれば、どこでも、誰とでもソーシャルワークできる！)

Q07

ソーシャルワーカーのやりがいとは？

②



人の人生の大事な場面に関わる仕事だからこそ、自分の働きかけが相手にとって最善だったのかどうか、考え続けること。苦しいことも多いが、自分にとってはそれこそがやりがいだと思う。

様々な人生、生き方、価値観に触れることができること。

他関連機関との連携が上手く行った時。

利用者や対象者の「ありがとう」の言葉に何度も助けられました。自分が支援することで対象の方が一歩でも2歩でも前進できる手助けをできた時はやりがいを感じます。

悩むことも多くありますが、支援した方の回復や希望に近づいていく様子を見られることです。

『やりがい』という考え方は持たないようにしている。苦しみの先にある仕事であるため、『やりがい』ではなく、ソーシャルワーカーとして『やるべき』こととして捉えているから

ご利用者、ご家族の笑顔、生活への希望を取り戻せる

結果は変わらなくとも、本人の気持ちを知る一人になりえること。その方自身が選択し、その方なりの一歩を踏み出した時。

「笑顔」や「嬉し涙」に出会えた時

あのときはありがとうございました。と言われるところと、困ったと思ったら私を求めて患者さんが訪ねてくれた時。

利用者の方が少しでも良い方向に向かえたり、「ありがとう」と感謝の意を伝えて頂いた時。

同じ志の方々と出会えた時。

毎日そう
思ってます。

行き詰っていた人の道が開けていくのが見れた時。頑張っている人の姿が見れた時、喜びを感じます。

Q08

この仕事をして、良かったと思った時はどんな時ですか？

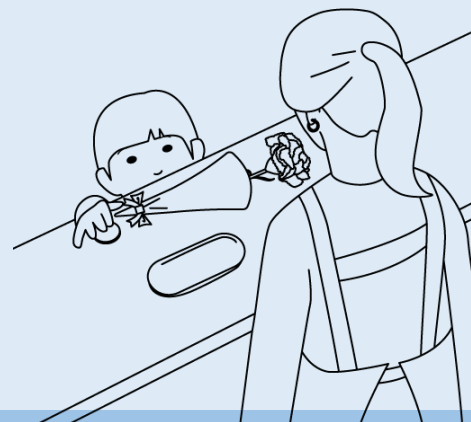
①

クライアントの自立を引き出せること、お礼を言われること、私自身が新しい目標ややりたいことをみつけ、学び続けられること！沢山仲間が出来た！誰かの支援や研修の運営を通して、私自身が1番学ばせてもらってます。

様々なケースを通して、自分自身の視野が広がったとき。

ありきたりかもしれないが、周りから感謝されたとき。

本人らしい生活ができた時の喜びを見ると良かったと思う



自分が発した言葉や行動で、利用者の行動や価値観が良い方向に向かったと分かった時。（一生のうち、何度あるかわかりませんが）

安月給ではあるけれど、社会情勢で左右されない給与体系。「ありがとう」の言葉などお金に代えられない価値（プライスレス）な経験を得る事も出来る。

色々な人との出会いに喜びを感じます。ご利用者との出会い、連携先との出会い、地域住民の方との出会い。福祉をやっていなければ出会えなかった人が沢山います。

当事者と信頼関係が築けたと感じた時や、その人の笑顔が見れたとき。

知らない事を知ることで、自分も周囲も理解が増えていくこと

亡くなる時に「あなたがケアマネでよかった」と本人や家族から言われた時。

シンプルに、ありがとう、と言ってもらえた時。(お客様、地域の人、関係機関、そして、職場の人、等・・・)

たくさんのいい人と巡り会える時

「〇〇さん(私)に話してよかった!」と言われた時です。

Q08

この仕事をして、良かったと思った時はどんな時ですか？

②

「ありがとう」と言われるのは嬉しいですね。



支援しているクライアントが、日々順調に過ごせていること。

ほころびかけていた人生の物語りをつむぎ直した瞬間です。障害年金などをはじめ、社会福祉制度や社会資源などを駆使して人生の物語りがつむぎ直された瞬間、人間て本当に純粹無垢な素敵な表情をするのです。どんな映画よりもアカデミー賞級ですね。



ありきたりですが、「ありがとう」「話を聞いてもらえてよかった」と言われた時。

いっばい不満や悩み、困ることはたくさんあるけど、周りのスタッフや利用者さんに感謝を言われたとき。あと自分が関わる事ができたことに感謝したい(思ってます)

本人、ご家族が笑顔を見せてくれる瞬間でしょうか。治療につながって安心する、経済的な問題が解決して安心するなど、生活や治療の具体的な道筋が立って心から安心した方々のお顔を直接見ることができたとき。

そもそも、この社会が健常者が過ごしやすいようにしてつくられた社会なため、その仕組みを「当たり前」のようにできないマイノリティーな人たちは、必死になって喰らいついでいます。そのため、あらゆる場面で支援の限界に直面してしまうことが多いですね。

組織に属している以上は金銭面を考えなければならないのが辛い。医療機関では支援するとお金が発生する...お金がなくて困っている人の支援なのに何をしているんだろう...と思うことがある

65歳未満の男性、一人暮らし、身寄りがなし、泊りのサービス等を利用が必要な状態の際に、介護保険・障害等の制度にはまらず、使える制度がわずかであった。市関係部局や医療機関や障害等々の関係機関にもやりとりするも、思った支援ができないといった葛藤を感じた。

その現実を、利用者に伝え、その中で、利用者が現実的に選択できるか否かは問わず、選択しを提示し、説明して、自己決定を支援する。

多々あります。葛藤でもあり、楽しみや面白みでもあります。是非同じ思いを感じていただきたいです。

Q09

「本当はこんな支援が行いたいが、制度や属する枠組みから実現することが難しい」といった葛藤があれば、知りたいです。

①



正直、毎日葛藤だらけですね。

言い訳になるが、今はどこの職場でも人がいない中で現場に入ることが多く、もっと地域とつながりたいが余力がない事に葛藤を感じる。地域のボランティア団体や教育機関とつながり、福祉の魅力をもっと発信する機会を作りたいが中々できていない歯がゆさがある。

この葛藤があったからこそ独立しました！

なし！やりたいことはどんどんやってみる！

障害者の枠に当てはまらないグレーゾーン（診断名がないけれど生きづらい人など）の人の支援 家族に対しての支援には評価があまりないことが残念です。

ほぼすべての関わりで、そのような葛藤を感じながら支援しています。

年齢、病名、収入等によって希望する資源に繋がらないことがあります。また、制度につながったがニーズを叶えられないことも（話をきいてほしいのに、時間の制限がある、話を聞くだけでは支援対象外になる等）

「制度やサービスに乗せればよい」ちちょっと固い機関から言われると、先回りしすぎて悩みます。本人のできることや失敗すること、選ぶことなど、本人優先より制度優先がはがゆい。地域差があって、本当に必要な人に支援や制度がいきわたらないこと。

糖尿病患者さんが食べ放題のバイキングに行きたいが、看護師から止められている。本人の主訴をとるのか、看護師（時に家族）の支援者の思いを取るのか。

いろいろな分野の職業の方と関わるということはそれだけ多種多様な考えを持った方々と仕事をすることです。なかなか自分と意見が完全に一致することはありません。時には家族や支援者が優先され、利用者の利益と反した方向で調整が進む場合もあるので難しいこともあります。

自治体によって社会資源の差が出ます。社会資源がないことにより、利用者のニーズをかなえてあげられない時は葛藤を感じます。

実現できないならば、ネットワークを構築して枠組みを多職種連携で拡げていく実践をしています。

制度や法が変わっても、人々の考えや思いの中にある差別や偏見はなかなか変えられないこと。一人ひとりを大切にしながらも、差別や偏見を無くすための正義を実現すればよいか。



葛藤しかないのが現実それでも、「何とかしたい」という気持ちが大事で、「しょうがない」で終わらせないように心掛けている

Q09

「本当はこんな支援が行いたい、制度や属する枠組みから実現することが難しい」といった葛藤があれば、知りたいです。

②

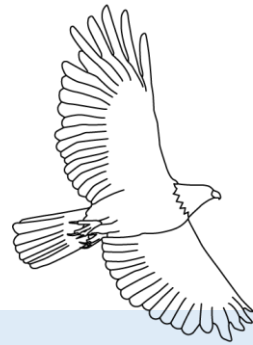
「お金」に還元されない支援です。まず言いたいのは、お金は極めて大切です。お金に価値還元されるから自由の中にも枠組みが決まり、限界が決まり、領域が決まります。だからこそ人間は安心して生きていけるのです。制限のない自由の中では、人間は生きることができません。それらをきちんと縛ってくれるのが「お金」です。

ですが近年、あまりにすべてがお金に還元され過ぎです。生きることのほとんどがお金に還元され過ぎると自由がなくなり、責任も取れなくなり、過度に束縛された「自分ではない人生」を選択せざるを得なくなります。それでは自分の物語りを綴ることができません。それは人間の悲劇です。だからこそ「お金」は大切ですが、お金だけにとらわれずお金に還元されない支援にもっと目を向けた方が人間は豊かになると思います。

葛藤だらけです。社会人である以上組織の意向が存在します。制度のはざまにいる人たちもたくさんいます。治療が必要なのに、医療機関の都合で、なかなか治療に繋がられない人がいます。そういった葛藤を抱えながら、自身の専門性でできることを模索していきます。大変ですがやりがいはずいぶんあります。

葛藤は常に感じています。ただ、葛藤は行動のエネルギーになります。葛藤を抱えているからこそ考え、行動する。結果的にそれが誰かのためになるという考えを持っています。「本当はこんな支援をしたい、けど制度上できない。」というのは支援者側の逃げ、諦めのような気がします。目の前に困っている人がいて、その支援を制度が邪魔をするようであれば、その制度が間違っている、或いは、その制度を上手に活用できていない支援者側の問題であると考えています。

物おじせず、いろんなところに行き、いろんな人の話をきくこと。福祉だけの見方だけではなく、もっと社会を知ることが大切だなと思う。



研修旅行とか学生の時に機会があるもの全て！社会人は時間がなくてチャレンジするにも大変...色々な視点からもっと勉強しておけば良かった。

時間が無限にあるかのように、無駄遣いしていた。そのため、やっておけば良かったことは、沢山あります。特に、海外での活動は、やっておけば良かったなと思っています。

たくさんの失敗と挑戦。いろいろな職種へのバイト。放浪の旅。

長期間の一人旅

学生時代にしっかりと勉強し、現役で社会福祉士を取得できていればもっと早く相談員業務に就けていたのではないかと後悔することがあります。

Q10

学生時代やっておけば良かったなと思う事がありますか？

①



自分の身近な人に限らず、年齢や国籍など問わず、いろんな人に会う機会を作ればよかったなあと思います。

いろいろな人との交流、意見交換、人脈をつくること

相談援助技術（受容、共感など）をひたすら練習しておけば、就職しても困らなかったのにな～と思います。

様々な年代の方々と触れ合う機会がもっとあるといいと思いました。

他の学部や他校の学生と関わる機会をもっと持てばよかったと感じています。学生の頃から多分野の方と繋がることは社会に出てから大きな力になると感じています。

感性を磨く体験。ミュージカル鑑賞、映画鑑賞、旅行、心を揺さぶられる体験。

「砂の器」「カッコーの巣の上で」等映画鑑賞

もっと時間を大切にすればよかったと思う。もっといろいろなことにチャレンジすべき（勉強以外にも）でしたね。

サークル活動

いろいろな人と接すること。
学習以外のことを経験すること。
友人とのつながりを軽視しない

社会の動向に目を向け、
今の制度の良い点や改善
点を学生の目線で捉えて
みること

いろいろなところを見て、
いろいろ経験すること。
自分は、バイトでビル管理
清掃をやっていたので、障
がい者の就労支援に役立っ
た。

無礼を承知で、ボランティ
ア活動をはじめもっといろ
んな場所に突撃訪問して、
身体にいろんな経験を刻ん
でおけば良かったと思いま
す。若くて体力があるうち
にしかできませんから。

勉強 旅行

たくさん旅行に
行くこと

Q10

学生時代やっておけ
ば良かったなと思
う事がありますか？

②

もっといろいろなことを
して遊んでおけばよかつ
たです。学生時代はたく
さん遊んでください。

取れる資格はちゃんと
取っておくこと。働き
ながらだとなかなか難
しい時がある。



合コンと勉強(その分男友
達と野球に遊びに明け暮
れたので、そこまで後悔
してるわけではないけど)

自分が学生の時も学生のうちに勉強するように言われ
たが本当でした。もっといろいろなことにもチャレン
ジしておけばよかった。福祉的なものに限らず、いろ
いろな経験をするはその後の仕事に役立ちます。
あとは出会いを大切に人脈作りも大事。これもジャン
ル問わずいろいろな人との出会いは大切です。

学生時代は本能の赴くま
まに活動をしたらいいと
思います。それで失敗し
て怒られても、怪我をし
てもそこから立ち直れば
いい。オリジナリティー
を発揮することができる
チャレンジ精神を持って
欲しいと思います。ただ、
考え方の基礎となる勉強
はしっかりした方がいい
と思います。ベースの考
え方をしっかり身につけ
た上でオリジナリティー
を発揮することが大切。



成功も失敗も、楽しいことも嫌なことも、何でもたくさん経験しておくこと。いろいろな人生に寄り添うには無駄なことはありません。

「現場に赴き、目で見て学ぶ」これが一番です。学生時代、緩和ケア施設でボランティアをしましたが、今でも良い経験となっています。

ボランティア活動。サークルを立上げ、福祉施設訪問・イベント開催・被災地支援などのボランティアを行いました。福祉関係の学部ではなかったので、ここでの経験がなければ福祉に携わることはなかったかもしれません。

なんでもいいです。時間は無限にあるものではありません。今を大切に精一杯いろいろなことにチャレンジしてみてください。

人脈を広げる。いいと思ったことは立ち止まらずとにかく一步を踏み出す。

色々な人との交流をしておいた方が
良い、
経験は大事！

福祉に限らない
色々な分野を知ること。

福祉関係に就職すると、周りも福祉関係者が多くなりがち。福祉に限らず、いろいろな分野の人の話をきくと、視野が広がると思います。

Q11

学生のうちにやっていてよかったと思うことや今のわたしたちがやっておいたほうが良いことはありますか？

①



立ち直ることができる程度の傷つき体験、自分で責任が取れる範囲で人を巻き込んでしまうようなやさかし体験、死なない程度の失敗体験は、やっておいた方が
良いと思います。

最高峰に触れておくこと！
日本一、世界一を見ておくこと

バイト。レジ打ち。
接客業。
お金を扱うこと。
接客マナー。
電話のやりとり。

福祉以外の様々なことに興味や関心を持っておいた方がいいと思います。その人の暮らし、人生に寄り添うためにはいろいろな暮らし、生き方、考え方、社会、価値観に触れることが大事だと思います。

たくさん遊ぶこと。自己理解を深めること。自分を知って初めて他者を支援できるように思います。

接客業をしていて、お客さんの要望を受け止めることが、今につながっていると思いました。（自分は居酒屋でバイトをしていました）

アルバイトは大事働く大変さは知っておくべき。福祉以外の社会をみることは経験値が上がるし、価値観も広がる。

今しかない時間を大切に
して、いろいろな経験を
積んでください。
楽しいこと、辛いこと、
全てが良い経験になります。

資格取得の為の相談援助実習
に行かせて頂いた施設と実習
後も交流をさせて頂き、結果
的にその施設の法人に入職さ
せて頂きました。実習先に魅
れを感じたら関係を保つこと
をおススメします。

- ・ NPO法人が主催していたサマーキャンプに参加したことで、福祉の世界が身近に感じられたこと。
- ・ アルバイトやボランティア活動を通して、社会には様々な仕事があることを知っておくと社会人になってから幅の広い社会人になるような気がします。

いろいろなところを見て、
いろいろ経験すること。
自分は、バイトでビル管理
清掃をやっていたので、障
がい者の就労支援に役立っ
た。

たくさんの失敗と
挑戦。
いろいろな職種へ
のバイト。
放浪の旅。

Q11

学生のうちにやっていてよ
かったと思うことや今のわ
たしたちがやっておいたほう
が良いことはありますか？

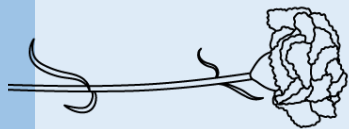
②

実際に会うことだけでなく、読書や映画などで、いろんな人たちの人生について見たり聞いたり考えたりする時間を作っておくことをおすすめしたいと思います。仕事をする上で常に必要だと思うのは、「相手の置かれた状況を推し量ることのできる想像力」であると、日々感じています。

どんなソーシャルワ
ーカーになりたいか、自
分なりのビジョンやモ
デルを持てるとよい

何か自分が
これは好き！と
思えるものを探すとよい。
将来ストレスの発散にな
る。

色々な事を疑問に持って、社会人になりその疑問の解釈を深められるといいなー。私は疑問すら持たなかったです。社会人も勉強することができますが、社会人の役割は働くこと。学生の役割は学ぶこと。勉強尽くしで嫌かもしれませんが、今の私は皆さんがすごく羨ましいです。



障がいのある方の施設で実習をしたことが、やっていてよかったと思っています。なぜならば、面接は口から表出された言語だけでは本当かどうか分からないということを、障害者施設で実習することで表情を読み取る力の重要性を感じたからです。やっておいたほうがよいこと。
新潟水俣病の語り部から、お話を聞く。医療ソーシャルワークでカテゴライズせず、多様性をもった人のお話を聞く。ハンセン病患者さんからお話を聞く。

学生の時に独り暮らしの身体障がい者のホームヘルパーをしていました。また、知的障害者施設のボランティアもしていました。実習もありますが、実習生という立場でなく、そういったことに参加すると見方も変わります。その経験は今の仕事にもいきていると思います。自分が学生の時も学生のうちに勉強するように言われたが本当でした。もっといろいろなことにもチャレンジしておけばよかった。福祉的なものに限らず、いろいろな経験をすることはその後の仕事に役立ちます。あとは出会いを大切に人脈作りも大事。これもジャンル問わずいろいろな人との出会いは大切です。

楽しんでるな！
いいぞーもっと
楽しめ！

遊んでばっかだった
ので、「遊びも大事
だけど、勉強も
ね。」

それ時間の無駄遣い
してるよ。いい加減
気付きなよ。

そのままでもいい！
その人生のままで
よい！

未来を見通して、時
間を無駄にせず、
もっと積極的に動
け！！

Q12

自分の学生時代を振り
返って、声をかけるとし
たらどんな言葉ですか？

①



視野を広く持ってね！

迷うな！
思ったままやれ！

何とかなるさ。

多動力を身につけ
てほしい。

お金よりもやりが
いを重視するなら、
いい仕事だからく
さらずに頑張りな
さい

たくさん失敗するけど、
それも含め、よい経験に
なり、自分の力になって
いくから大丈夫！！

とくにしません。
今のままを生きてほ
しいと思いながら、
静かに後ろで見守り
ます。

願い通り、医療
ソーシャルワー
カーになれたよ。

このまま好きに
いきればいいよ、
と。

もっと資格取得の為
の受験勉強をしっか
りしろ。

もっとマジメに勉強
をしてもっとマジメ
に遊んでおこう。就
職してから泣くのは
自分だよ。

人の話をちゃんと
聞こう（笑）



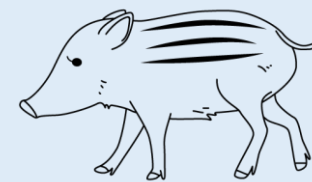
Q12

自分の学生時代を振り
返って、声をかけるとし
たらどんな言葉ですか？

②

教職しか目指しておらず、
でもいまはそれと違う道
を歩んでいるので、「そ
んなに固く考えなくても、
なんとかなるよ」と声を
かけたいです。

良い友達も悪い友達
も、みんな大事。



「何をするにも中途
半端な自分、いろい
ろ失敗するけど、そ
の経験が今に繋がる
よ」と。

やりたい事があるなら
そのまま突き進め！

出会いを大切にす
ること。

それでいいと思うよ。
これから苦労もするけ
れど。
それも人生。

今のままでいいよ

一人で抱え込むことはしない。専門職には限界もあるので、ネットワークづくりが大切。

独りで抱え込まない。



とことん自分を知り、自分の個性を生かした仕事をして下さい。福祉の仕事は将来AIに仕事を取られないジャンル。「人間しか人間を支援できない」自信と誇りをもって仕事を続けてください。

自分自身の健康管理、メンタルヘルスをきちんと行うことです。

感受性をみがく、日常のちょっとしたことに関心を持つ。

Q13

この道に進むにあたって、心がけたほうがいいことはなんですか。

①

自分のやりがいのために仕事をしないしてほしいこと

心身の健康が大事だと思えます。この道に限ったことではないと思えます。

先輩や、大人のアドバイスが必ずしもあなたにとって正解ではないこと

常に自分を持ってほしい。

自分の考えを押し付けないこと。人の意見に耳を傾けること。

もっと人間を許せる（赦せる）ようになると心掛けた方が良いでしょう。

それは、人から聞くものでなく、自分で考えなさい。失敗しながら、自分で気づくものです。実感や体験なしに、心がけることは生まれません。

謙虚な振る舞い

- ・人のために生きるという覚悟
- ・理想とする将来像を持つこと
- ・とは言え、リフレッシュすることができる時間を持つこと

バーンアウトに気をつけよう。
セルフケアは大事です（自分
に向けて言っています）

いろんな生き方や、
いろんな生活がある
のを知ること、認め
ること。

資格をとってからも自己
研鑽が大切、他人の意見
をよくきくこと、根拠を
もった提案ができること

いろんな経験を積む

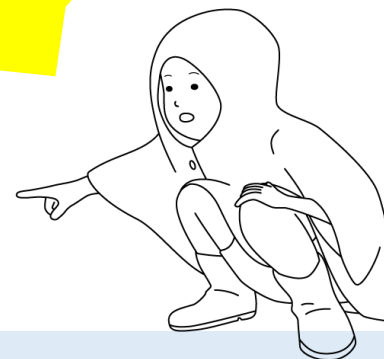
信じること！！自分や周囲
の力を信じ、いつかうまく
いくこと、いつか理解が深
まることを信じ続けること。

Q13

この道に進むにあたって、
心がけたほうがいいこと
はなんですか。

②

見た目。清潔感。
あいさつ。
接遇マナー。



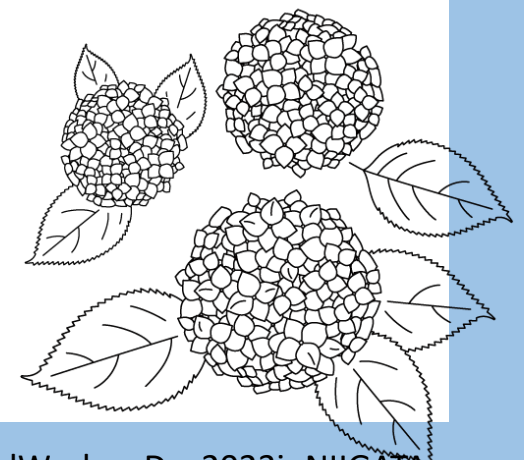
自分の中で譲れない部分
を持ってしっかりと意見
を言うことです。時には
上司、同僚とぶつかるこ
ともありますが。

これはだめだ、これはよい
と決めつけるのではなく、
「ああそんな考えもあるん
だ」という素直さと柔軟な
思考。

自分の価値観を押し付け
ないこと。
つい、やっちゃう。

誰かのために「やってあ
げる」のではなく、その
人が頑張る力を引き出せ
るよう、隣で支えるとい
う伴走型支援の考えかな。

心身ともに健康である
こと
気持ちに余裕が無いと、
人にやさしくなれない
ですから。



家族と過ごすこと。プライベートの時間を大切にすること。

ツライこと、大変なこと、キツイこと、面倒くさいこと、嫌なことほど、得られるものは多くあると思っています。なので、如何にDMになれるか！と自分に言い聞かせています。

クライアントの笑顔。たまに味わう達成感。家に帰ってからの晩酌。

ソーシャルワーカーとしても人としても成長できること

自分ひとりではなく他のソーシャルワーカーと分かち合え、学びあえること

一人のクライアントの生活課題を解消できることが社会全体の課題を解決できるきっかけになる。その視点をもって、より多くの方への福祉が行き届く社会を目指していくこと

常にステップアップできる目標をもち、その目標に向かう

難しい質問ですね。年齢によって、変わるかもしれません。今は、週末の自分へのご褒美のために頑張っています。

仕事後や、休日の楽しみをモチベーションにしています。

面接の精度をあげること。教えていただく、語っていただく面接に近づけられているかどうか？

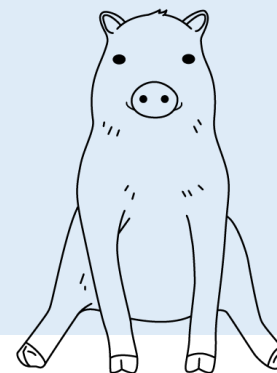
休日を楽しむこと



Q14

仕事を行う上でのモチベーションは何か教えていただきたいです。

①



定時退社、お金は沢山使って私生活を潤わせる！職能団体に入り、他のSW達と話し合えたり、色んな企画をできること！

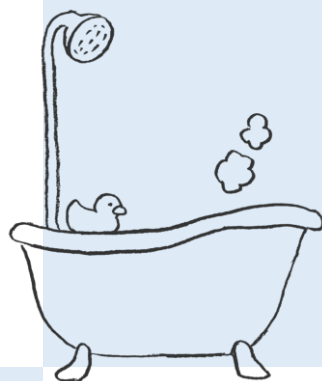
利用者、クライアントと接していくうえで「ありがとう」の言葉を思い出すことと、時に悩んだ時には愚痴ってお酒を飲んだりして発散する仲間とのつながり

仲間！！悩みや愚痴を言い合い、思いを語り合い共に向上し合える仲間の存在！

たくさんの方の人生の物語を見させていただけること

新しいこと、仕事以外のことに興味を持つこと。

人間の物語りに触れたとき。



Q14

仕事を行う上でのモチベーションは何か教えていただきたいです。

②

日々頑張ってる仲間の存在。自分も頑張ろうと思える。

周りから承認されたり、頼られるとモチベーション上がります。

自分にもできること、自分にしかできないことがあると思いついて入っていること。

できることが増えてクライアントやご家族へのアプローチの方法が増えたり、クライアントの選択肢を増やすことができるとよりモチベーションが上がります。知識をアップデートし続けることでしょうか。

人との出会い。

まだ支援が届いていない方々へ新しい仕組みづくり（地域づくり）に貢献することで、新たな社会資源を生み出すことが大きなモチベーションになっています。目の前にいる『困っている人』への支援を実施することはもちろんですが、**SOS**を出すことができない人に対して社会福祉ができることを考えています。

自分の価値観を捨て、目の前にいる相談者にとにかく寄り添う姿勢だと思います。

聴く力
教えていただく力

トーク力

国家試験の合格に必要な知識は付いていると思うので、より利用者さんやクライアントと楽しむ、楽しめるチカラ。

学んだことを活かして、物事をなんとなくうまく進めること。

探求心

Q15

人間力

理論、アプローチを意識した実践

社会福祉士として必要な力とは何か教えて頂きたいです。

①

折れない心かと思います。基本的に葛藤の連続です。一つのケースが落ち着いても別のケースで何かに衝突します。辛抱がよく、関わり続けるクライアントや自身の力を信じることも必要かと思います。

相手のお話をまず聴こうとする態度。



適度なゆるさ

目の前のクライアントに対する支援とそこから見えてくる社会全体の課題、その両方を改善しようとする意欲。特に後者は社会福祉士だからこそ必要な役割。

想像力！！多様な考えや生き方を受け入れ、多様な方法をイメージできること。

観察力、コミュニケーション力（聴く、伝える）。

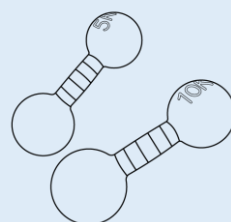
向き不向きではなく、自分がその仕事をしたいかどうかがいちばん大切。

相談支援の対象者に限らず、出会う相手に対して「分かろうとする」積極的な関心だと思います。

- ①課題解決力（自分の実力）
- ②他職種と連携する力（他者と協働することができる人間力）
- ③継続力（支援を諦めない根性、学習を継続する根性）
- ④社会正義

疑問に思うこと。
違和感を言語化すること。

いろいろあると思いますが、イメージーションの力は必要だと思います。



Q15

社会福祉士として必要な力とは何か教えて頂きたいです。

②



いろいろな立場をその人の見方で考えること、とりあえず受け止めることは心がけています

人間の物語りにわくわく、どきどきする「感じる力」。しかしその物語りを操作せず、ありのままに受け入れる「何もしないことをする力」です。

広い視点と交渉力

私自身も模索中です。

想像力
創造力
妄想力

自分で仕事をしながら見つけなさい。人によって必要なモノは違います。

自分自身が相談する力が大事だと思う。慢心はダメ絶対...いつももっと別の手段があるのではないかと考えていきたい。

「聴く力」
ただクライアントの話を「聞く」だけではなく、理解したいという姿勢、質問する（引き出す）力、すなわちコミュニケーション力が大事。「聞き上手」は「質問上手」ということです。

広い視点で地域の強みと地域課題に焦点をあて、それらを育て、解決していく視点。

根回しの力。調整力。

体力

謙虚さ、誠実さ

伴走型支援機能を多職種に、地域住民に広げていく力

広い視野がある、友達をつくり広げられる、勇気をもって発言・発信できる

自分の言動を振り返ること、他者からの指摘を受け止めること

制度にとらわれない、自由な発想。

Q16

CSWに必要な要素は
なんだと思いますか？

いかにその地域を好きになれるか

地域住民に信頼されるソーシャルワーカーになること。そのためには、現場に行くこと。

いろんな物語りを生きる人々が、生き生きとストーリーを描けるフィールドが地域だととらえること。そしてそのフィールドをいかに用意するかを考え続ける力。

ネットワーク
コーディネート
地域課題解決



どこへでも顔を出す
フットワーク。

繋がりを活かして、物事をなんとなくうまく進めること。

地域に住んでいる人たちのこれまでの歩みを理解するところから...
ですかね。

自分ひとりで抱え込まず、資源とつながり、必要な支援や機関につなげるような広い視野、これがだめなら次の支援と投げ出さないこと

積極的に自分、組織と地域を結び付ける開発力が必要。地域課題を把握し、それに対してどのような社会資源をコーディネートすれば解決するか？という考え方や実践力が求められると思います。民間企業で言えば『営業力』でしょうか。

自分で仕事をしながら見つけなさい。人によって必要なモノは違います。

自分の居場所、所属を1か所だけにしないこと。自分から関係作ることが大事です。

多職種、多機関にさまざまな繋がりをつくること、コミュニケーションをとること



一番は自分の職場以外の仲間（多分野多職種あらゆる人たち）とつながっておくことですね。「取り組み」として考えれば社会福祉法人や社協などの自身が所属する組織にそのような仕組みもあるのですが、組織の大小によってもその仕組みが整っているか未整備なのかも違うかもしれません。それを補うものとして社会福祉士会には分野を超えたスーパービジョンの仕組みもあります。ぜひ活用していただければと思います。

専門職の限界？その一人ひとりの得手不得手もあるので、助けられ上手、頼み上手になること。

朝会でいろんなことを話しまくること。上司や同僚との関係性。

定期的なケース会議は必要かなと思います。

Q17

専門職が問題や課題を一人で抱え込まないようにする取り組みなどがありますか

①

相談相手を見つけること。その近道は、社会福祉士会（職能団体）に所属すること。

職場でのミーティング。他機関の人達と交流。スーパーバイザーをお願いする。

相談できる人との繋がり

自身の気分転換方法を明確にすること。意識的に気分転換すること。仲間を作り、愚痴をしっかりと吐くこと。仕事以外は仕事のことは考えないこと！

人とのつながりつながるために、他の人からお願いされた際は汗をかいて頑張ること。それを続けると、ネットワークが生まれると思います。

職場内で相談できる環境であれば良いが、そうではない場合、職場外で相談できる場所を探すこと。特にオンラインは相談のハードルも下がるかと思っています。

自分の限界を把握し、自分が「助けて、手伝って」と言える相手を見つけておくことのように思います。

新潟県社会福祉士会に入会。会では会員同士の交流や学びの場を作っています。

職場内だけではなく、悩んだり、知りたいときに相談や連絡できるつながりを増やすために職能団体に所属し、研修や活動に参加する。

チームを信用すること、仲間を信じること。「一人で何とかしよう」と粹がることは本当にダサいことだと知ること。

職場内はもちろん、職場外でも話ができる仲間を増やすこと。

仲間作り、SOSを出す、色んな人を巻き込み、役割分担すること！(自分が誰に何をやる役割なのか、しっかり把握することが大切)

ソーシャルワーカーは一人では何もできないことを認識すること。多様な人々と共に考え、共に歩み続けることがソーシャルワーク実践だと思います。

個人的には、横のつながりを作りたいと思っている。

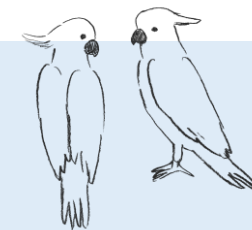
話をできる相手を増やすこと。

困難は分割する！役割をたくさん分担する。助けてくださいと言える人材になる

Q17

専門職が問題や課題を一人で抱え込まないようにする取り組みなどありますか

②



社会福祉士会や様々な研修を通して、他職種との連携を持つことだと思います。単一の組織、団体だけで解決できない社会課題、地域課題が増えています。他の専門職から意見を聞くことができる環境づくりは自分の武器になります。分からないことを気軽に聞くことができる相手、仲間を増やすことで業務上の閉塞感は消えると思います。連携のポイントは『気軽に聞ける』という関係性です。そのためには普段から様々な人と積極的に会うことが必要になります。

社会福祉士会等に入会するなど、専門職の横のつながりをもつこと

職能団体はとても有効だと思う
積極的に参画して欲しい

職能団体の研修受講から、ネットワークを構築。そしてスーパービジョン体験をすること。

とにかく発散。
仲間を多く作る。

たまには職場から離れて研修等に参加し、他のソーシャルワーカーと意見交換をすることが一番力になりますし、気分転換を図れます。

周りには必ず誰かいます。お話ししてください。話をすることが、こんなにも楽になるのか！と、気づかせていただきました。まずは、話しをすることです。

大きく価値観が変わった事はないが、いろいろな生き方があっていいんだと思えるようになった。

相談援助する時は自分の価値観は不要だと思っていますので無いです。

自分の価値観が通用しない方も多々いらっしゃいます。それを知ったうえでどのように対人援助をすべきなのか。深く自分を見つめなおすきっかけはいくつもありました。自己覚知ですよ。自分はこんなにいらいらしやすかったかなとか、思い通りにならないと人のせいにしてしまおうとか・・・自分の未熟さを改めて知るそのための鏡がクライアントなのだと思っております。

高齢者の皆さんは『地域の図書館』机上の検討ではなく、住んでいる地域のことはその土地の人に聞くのが良い。



Q18

相談者さんとの出会いで自分の価値観が変わったことはありますか？また、どんなことが変わりましたか？

①

過酷な生活や体験をしてきた方々にたくさん出会います。そんな中ひとりで逞しく生き抜いてきた姿に出会う度に感心しています。一般的には許されないことや、過った事を行ってしまった方に対しても必死に生き抜いてきた結果であると敬意をもって関わらせてもらっています。

当たり前ってなんだ？と相手の価値観と自分の価値観が違うことで起きる気づき。

お金の使い方、価値観は本当に人それぞれで、当たり前ではなかった！

「自分だって頑張っているから、そこを褒めてほしい」と言われた時。振り返れば、その人に指導的なことばかり言っていなかったなあ～、気づかされた。以後、指導より支持を意識するようになった。

自分の都合を主張するだけでなく、相手方の話を聴き理解しようとする。

認知症は支援される人だと思っていたが、ある認知症当事者と話したことで、それまでの認知症に対するイメージが大きく変わった。自分の中の偏った考えではなく、目の前の方の言葉を真摯にきくことから始めたいと思った。

相談者さんの方が私のやっている仕事を理解していたとき。相談者さんは自分の物語りを再編しながらも、私をも尊重してくれました。人を誠実に思いやること、人間としての誇りを持つこととはこういうことか、と学ばせていただきました。具体的には言えませんが。

良い意味でたくさんの影響を受けています。明確にこれが変わったと言語化できませんが、関わる中で仲良くなったり、時には衝突もします。こちらが良かれと思っていることが余計なおせっかいになっていること、それに気づいていないことなどはよくあります。そういう自分に気づかせてくれるのも相談者さんです。

日々の相談で価値観は変わります。ご相談者から学ぶことが多い、というか、ほとんどのことをご相談者から学びました。どうしてリストカットをするのか？オーバードーズをするときの精神状態。精神障がいを抱えながら生きる苦勞。ひきこもり状態にある毎日の心境。などなど、自分では想像しかできないことの実際はご相談者から学ばせて頂いています。そのたびに価値観が変わり、次の支援に活かせるようにしています。

色々な人と出会い価値観は変わった（例をあげるなら、一般的に言えばゴミを捨てられない方、家が物であふれている方との出会い、犬や猫多重飼育の方との出会いなどで、本人がそれに至る経緯が必ずあることを学んだ、自分の常識は常識でない＝自分のものさしで相手を図らない）

Q18

相談者さんとの出会いで自分の価値観が変わったことはありますか？また、どんなことが変わりましたか？

②

「こんな生き方もあっていいんだ」と思えたこと。

自分の思考傾向が自覚できた。偏りがあることを自覚できた。

それまで自分の中にあった、「普通」という感覚が、実は根拠に乏しく、あてにならない考えであると気づくことができました。



この仕事をしていると、自分の価値観が常に揺さぶられてしまいます。相談者の価値観をすべて受け入れるのではなく、自分の価値観と比較して客観的に見ていけるかが大事な気がしています。

さまざまな価値を持った方たちがいます。価値観が変わったというよりも広い視点で考えられるようになりました。

色々な価値観があるから日々勉強になる。自分の視野の狭さ、想像力の低さを知れた

いろいろな方のアセスメントをすると自身の生きてきた世界がいかに狭い世界だったかを実感することがあります。県内でもいろいろな環境があるんだなと実感し、視野が広がっているんじゃないかなと感じます。

行動の裏側(背景、気持ち等)を日常生活でも考えられるようになった。

福祉の魅力を伝える努力をしなければいけないと思っています。**SNS**なども使っていきたいです。

地域のサポーターを増やし、住民自身が住民を見守り支援する仕組みをつくる
(コミュニティソーシャルワーク)

業界全体に思うが、ITや自動化ができていない。データの蓄積がばらばらのため再利用しにくいなど課題が多い。技術の力を存分に使ってほしい。

身近な地域にある社会資源を活用したアプローチをしたいと思います。

人手不足という言い訳は、人が居ても使い続けるとしています。なので、自分の周りのスタッフが「やるぞー!」と思えるようなエンパワメントから!

職能団体を通じた人材育成と、ネットワーク構築

自己研鑽、業務の中での経験により、自ずと視野は広がるとしています。いかに効率よく業務をこなせるか、現在の問題点を洗い出し、どのように改善していくか起承転結に考え、会議等でプレゼンテーションしています。

1人で抱え込まない。周囲に自分の思いを発信する。共感する仲間とともに出来ることをする。



Q19

目の前の課題もより広い視野での課題も日々向き合っていますが、人手不足の中、それらの課題に対してどのようにアプローチしたいですか?

①

人手不足の中でもできることを考えるかな

人手はいくらあっても充足するということはありません。一人で抱え込まず、今の環境で何ができるのか、チーム内で協議すること、現環境下でうまく循環するように潤滑油となる必要があるかと思っています。

マクロとメゾとミクロの課題の使い分け?ということでしょうか?

マクロやメゾの課題は、すぐに解決できないことが多い。そこにターゲットを絞るより、マクロやメゾの課題の元はなにかな?と課題を掘り下げる視点が大切だと思います。

一度、福祉の道を歩んできてくださってきた方々をとにかく大事にしたい。それしかできません。

専門職もちろん頑張りますが、専門職だけではなく、地域の人の子カラも集結し、地域の『元気』でインフォーマル資源を創出していく。

あまり深く考えない。なるようにしかならない。とおもって、仕事をしている。

人手不足の時は冷静さを失いがちですが、少しでも課題に向き合う時は一呼吸置いて向かい合いたいと思っています。簡単なようでなかなか難しいですが。

社会福祉士の認知度を高め、仲間を増やしたいです。

細かく言えばたくさんありますが、大雑把に言えば、手続き的なことなど別に人間の物語りに関わらなくて良いようなことは、もっと早くAIを活用し委ねて良いと思います。そういったことが仕事の中で実は多くの時間を要するからです。また、地域という、人間が個々それぞれの物語りを綴るために必要なフィールドの再編と役割配置を考えられる人を育てることだと思います。

できない理由を探さない。既存の資源の中でできることもたくさんあります。チームで想像力を働かせることで課題解決のためのアイデアはたくさん生まれてきます。

一人で頑張ろうとせず、多職種の間をお借りして、チームで取り組む。

新潟県の相談支援体制ビジョンのように、自己の職場の業務を整理すること。

Q19

目の前の課題もより広い視野での課題も日々向き合ってくださいと思いますが、人手不足の中、それらの課題に対してどのようにアプローチしたいですか？

②



人手不足が解消されることはないと思います。それはある課題に対して、「これで完璧！」という体制を整えることは不可能に近いからです。そんな環境の中でも福祉専門職は諦めてはいけません。人手不足、予算不足、資源不足の中で『困っている状況にある人』をいかに支援するか。ソーシャルワーカーに求められるチカラのひとつだと思います。支援を展開する上で不足している資源、知識があるとしたら他職種と連携をすることでカバーし合う。そのために、普段から地域の他団体や専門職と連携しておく必要があると思います。必要が出てから連携を考えるのではなく、何もない状態でも『将来、いつか』のために連携を深めておくことが大切になると思います。

人手不足は、できるだけ考えない（思わない）ようにしています。そこを考えてしまうと、安易にそこを理由に前に進もうとしないので。自分達の所属組織で足りないことであれば、人との繋がりが醍醐味な職種のわけですし、他所属や他機関に発信しながら取り組んでいきたいと思っています。

新潟県は面積が広く、地域によって、特色が様々なので面白いと思います。

災害が起きても助け合いの精神が強い（雪国だから？）課題は過疎地域の福祉サービスをいかに浸透させるか、だと思います。

地域によっては支援者の顔の見えるつながりがあることが魅力。ないところもあるのが課題。

(個人的に)新しいことに取り組む熱い人達が多い！

魅力：社会福祉士会、精神保健福祉士協会、医療ソーシャルワーカー協会のネットワーク
課題：ソーシャルワーク専門職の養成校を起点とした人材育成

雪かき、とか、隣近所でめちゃくちゃ協力しあってるところ。

魅力→同業者とのネットワークが作りやすい（ただし地域差はあるかも）
課題→広いが故に、車を持っていない人にはつらい地域（ときに山間部）



Q20

社会福祉士の視点から考える新潟県の魅力と課題は何ですか。

①



比較できるほど他を知りませんが、社会福祉士会の面々は意識高く、理想高く、そのために必要な連携や協働を意識的にやっという雰囲気を受けます。その仲間の輪を広げていくことで新潟県内の福祉はさらに向上していくと思います。課題は・・・偏見かもしれませんが、田舎にいくほど福祉が遅れている。サービス、社会資源が未開発でそこに関わる人材もまだまだということを感じることがあります。

研修などの多い首都圏へのアクセスがよい。高速道路、新幹線。

魅力：農家さんとの連携（ノウフク連携）や豊かな食を通じた地域づくり、交流の場づくり
課題：どこの市町村でも起こっている人口減少に伴う人手不足や買い物など生活をささえる資源が不足する。

新潟県の魅力は、上杉謙信が大切にした「義の心」。課題は、義の心を見失いつつあること。雪深いところで生活する新潟県民は、もともと「義の心」が自然発生的な文化としてあり、助け合いの精神が大きかったように感じます。

「義の心」は上杉謙信のいた上越市だけではなく、身近なところでは新潟市中央区沼垂地域の農民の伝承にも見られます。幕末の頃のお話です。



Q20

社会福祉士の視点から考える新潟県の魅力と課題は何ですか。

②

縦長の新潟県の中でたくさんの地域文化があるところ。逆に、地域の独特の考えや風習が根強いこと。

新潟県といっても地域性はそれぞれですので、一概に言えないところもありますが、過疎、限界集落、人口減少などの課題がある地域が、都市部と比べて深刻です。これらは課題でもありますが、見方を変えれば先進地だとも思っています。

良い素材にあふれている（潜在的な強みはある）が、発信が下手。もっと外から客観的に、自分の住んでいる県を俯瞰した方が良いと思う。

魅力はソーシャルワーカーの3団体が仲良いこと。課題は新潟県と新潟市の二重行政がうまく機能していないこと。

四季折々の楽しみがあること。その楽しみは見方を変えると、生活の支障にもなることも。

自然が豊かで心が安らぐのが魅力。一方で、部落意識が強く、新しい文化の受け入れがしづらいのが課題

自分たちでより魅力的な県を創れるといいですね。

都会にはない地域力がまだ残っている場面を感じます。以外なところから支援や情報提供をいただけることもあります。



私の妻は就労時間や育児休暇制度などを気にしていたそうです。

二児の父ですが、やはり子育てに関する休暇や有給休暇が比較的取りやすいかどうかという点があるかと思います。人材不足の中で理想ばかりでごめんなさい。

三児の母です。時短勤務で働けて、福利厚生がある職場を選びました。

Q21

二児の母です。ママさんソーシャルワーカーがいたら、どのように就職先を選びましたか？チェックポイントなどあれば教えてください。

子どもさんの急な体調不良時に、療育休暇や時間休が認められている職場。
法人、事業所としての取得しても良い雰囲気、取得率など福利厚生の整備具合

ママさんソーシャルワーカーではないですが、私の法人はこども園、放課後児童クラブもやっているの、職員でお子さんを預けている人もいます。なお、公立のこども園ではないので、最大で20:00までお預かりできます。

ママではないですが、自分も2児の父です。今の時期の子育てを優先した結果、独立型を選択しました。



新潟県のみならず、全国各地の地域に出向いて、地域住民・関係者と地域づくりに携われるようなソーシャルワーカーになりたい。

認定社会福祉士になって、カッコよく働き、もっとキラキラしたイメージや、自己研鑽が楽しいって雰囲気福祉界に広げたい！

ビッグではないけれど夢があります。グループホームや共同生活が出来る場を増やせたらいいなと思います。

現在は、独立型に関心があり、そのために色々な情報収集や勉強中です。

現在、終身雇用が破綻しかけているなかで、このまま働いてよいのかと思う人もたくさんいると思います。新しい働き方や地域中心の福祉をできる事業所を考えていきたいと・・・野望をもっている。



Q22

キャリアを積んだのち、ビッグな夢（法人立ち上げなど）がある方がいたら、その夢を語ってほしいです。

地域課題に向き合っ
ての結果、立ち上げる
こともあるかと思
います。

ビッグな夢ではないですが、1年以内に法人を立ち上げる予定です！ソーシャルワーカーが活躍できる「場所」を創りたいです！

いつかは地元で個人事務所でも立ち上げて、死ぬ間際までソーシャルワークができればいいですね。

10年前の夢は独立型の社会福祉士。今はそうしている方々を陰ながら応援しています。

法人立ち上げも凄いことではありますが、法人を立て直す、発展させるも凄いことだと思います。私はどちらかと言えば後者です。老舗、大きい法人だからできることもあると思います。法人を変えることで地域の皆さんが幸せに暮らせるように頑張りたいです。

ないです
自分は静かに過ご
したいですね。

厚生労働大臣。もしくは、大臣さんと官僚をも操る影のブレーンとして暗躍。キャリアいくら積んでもいいと思いますし、どんなに大きくても良いのが夢です。

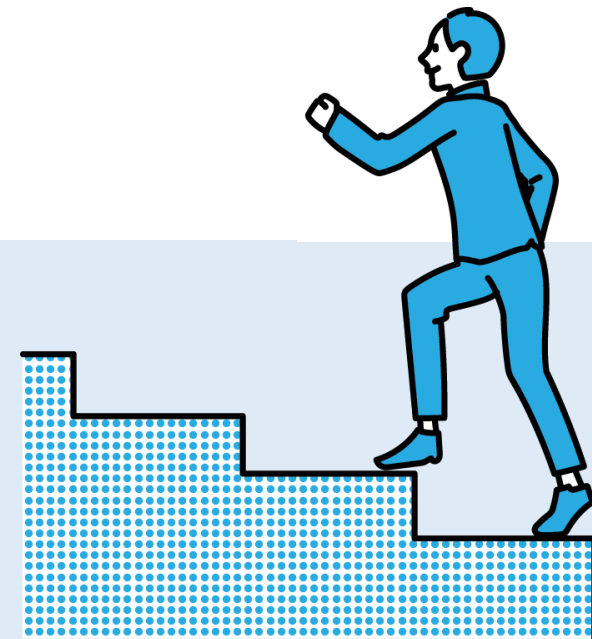
学生のみなさんにはビッグな夢を持ち続けて欲しいと思います。ただ、「法人を立ち上げる＝ビッグ」ではありません。『立ち上げた法人で何を実現したいか?』そこに大きな考えを持って下さい。また、どこかの組織、団体に所属をしたとしても、それは変わりません。我々が抱く夢や目標は「人や地域のためになること」が大前提です。それは大小では判断できないことです。『1人を支援するか、100人を支援するか。』どちらも等しく尊いことなのです。若い力で独創的で有益な社会福祉の実現に向けて頑張ってください！！

Q22

キャリアを積んだのち、ビッグな夢（法人立ち上げなど）がある方がいたら、その夢を語ってほしいです。

この質問をするということは、きっといつかは自らがビッグな夢に向かって進んでいきたいからでしょうけど、もしそうなりたいのであれば、他人の夢を聞いている暇があったら、こんなところに来てないで今すぐ自分の脚本を描いて動きなさい（笑）
ビッグな夢を持つということは、それなりに壮大なオリジナル物語りを自分で脚本できて、自分がその中心にいる覚悟を持たないとできないです。私の友人で起業した人、大きなことを成し遂げている人は、みんな他人の夢に対して興味なんか持っていません（笑）

『異端の福祉 「重度訪問介護」をビジネスにした男』という本を買いました。まだ読んでいませんが...福祉はとかく「清貧」でなければならないという暗黙の了解が業界に浸透している気がしています。それでは業界全体がいつまでたってもこの閉塞感（人材不足、それに伴う質の低下）を打破できないという考えを持つ著者が「儲かるビジネス」として十度訪問介護という業態で成功を収めた内容のようです。私も似た考えを持っておりこのようなチャレンジをしてみたいと思います。



キャリアコンサルタント資格取得に向けて頑張っています。いずれはNPO法人を立ち上げ、生活困窮者支援や生活保護受給者の就職支援、子育て・介護しながら働く人、病を抱えながら働く人、障がいを抱えながら働く人等が自分らしく働け、夢を叶えられるよう支援していきたいです。